



「図書館に行こうよ ―新米司書館長の図書館日記―」 018

Title: 市立図書館、年内は明日まで！

大館市立図書館の指定管理者として2度目の冬。昨冬とはえらい違いで、一生懸命除雪に努めても開館前に除雪が終わらず、利用者からお叱りを受けることもあります。職員は言い返すこともできず謝るしかないのですが…。

ところで、歳時記と太陽暦の季節の実感が合わない例は少なくないわけですが、雪国では「汗」もそうかもしれないと思う今日この頃です。何でこの寒さに汗がダラダラ流れるんでしょうか。皆さん風邪をひかないよう、どうかご注意を。

❖ 年末年始に読みたい本

この年末年始は9連休という方も多いようで、良かったですね。市立図書館は12月29日から1月3日まで、6日間休館します。ただし比内図書館だけは、公民館に併設しているため、本日から1月4日まで休館となります。

年末年始に読書三昧という人はどのくらいいるのでしょうか。貸出冊数を倍増していることもあり図書館の貸出は順調に増えていますから、それなりにいるのでしょうかね。もっとも何かと気忙しい中、実際は思ったほど読めないで終わる人も多いでしょうが（我が身を省みての推測です）。

何を読むか。まとまった時間にはまとまったシリーズ物をとというのは、アリでしょう。今年第10巻で完結した高田郁『みおつくし料理帖』シリーズ読破とか。特定の著者の本をまとめて読むのも悪くないですね。正月は割と気軽に読めて気持ちの晴れるようなエッセイなどもいいかもしれません。個人的におすすめは「暮らしの手帖」編集長・松浦弥太郎の著書・訳書。中央図書館に12冊あります。

また、90歳を超えてなお旺盛な執筆活動を続ける外山滋比古の『聴覚思考―日本語をめぐる20章』（中央公論新社）。専門の英文学や言語学をはじめ、日本語論や幼児教育論他諸々の評論・エッセイなど様々な著書をもつ外山氏。11月発行の最新刊は、日本の「目の読書」偏重から脱皮して、「耳からの読書」や対話対論談論によってものを考える力を養う必要性を訴えています。読み聞かせはもとより、ビブリオバトルや「図書館でホッとタイム」など、市立図書館で行っている各種イベントにも通ずる論旨で、励みになります。なにより、平易な表現で読み易い。おすすめです。ちなみに外山氏の著書は、市立図書館全体で42冊あります。

❖ 高校生が読み聞かせ

年明け1月9日（金）の午前10時から11時まで、中央図書館児童コーナーにおいて「高校生の読み聞かせ会」を開催します。

大館市内5校の高校生が集結して読み聞かせを行うこのイベント、子どもたちに独特のワクワク感を与えるようです。お母さんやお祖母ちゃん世代（失礼！）の安定した読みきかせと違って、声の質の違い、リズム感の違い、それに、お話することに慣れていないところまでが新鮮さと親近感を感じさせるのでしょうか。年齢が近いせいもあり、何か子どもたちがお兄ちゃんお姉ちゃんを応援しているようにも見えて、微笑ましいひとときになります。

入場料などはありません。事前申し込みも必要なし。年齢制限もないので、どうぞ老

若男女うち揃って中央図書館にお越してください。お待ちしております。

今年も大館市立図書館をご利用ご支援いただきまして、心から御礼申し上げます。来たる年もどうかよろしく願いいたします。皆さまにとって良い年でありますように。（陽）